

4 「住」分科会

コーディネーター



静岡文化芸術大学
デザイン学部教授
宮川 潤次氏

良質な杉、ヒノキの産地である天竜の地域文化を背景として、それらを使った家づくりを発信することにより、天竜材の利用拡大や地域PRの可能性を探る。

天竜材を利用した住まいづくり

地元天竜材の川上から川下まで 一体となったネットワークを構築しよう

最終ユーザー(消費者)に地元で地元材を使うことへの価値を伝えるには相応の努力が必要です。補助金事業以外の対策も考えていかなければなりません。この地域で地元材を使っている方はたくさんいますので、これからはぜひ連携を意識していただきたい。木を植える方、伐る方、使う方、売る方、家を建てる方、設計者、居住者が地域の大きなネットワークを築かれることを期待しています。



PHOTO/1.住分科会関係資料 2.3.分科会会場

パネリスト

静岡県家づくり 浜松協同組合

事務局
伊藤 雅章氏

地元工務店が大手に負けない 高品質木造住宅を担えるように

同組合は齋藤氏を中心となり、県西部地区の工務店で注文住宅を依頼した施主がその後リフォーム等の相談をしやすいよう、技能者たちを束ねて昭和59年に設立。現在は遠州型長期優良住宅整備促進事業の設計施工マニュアルを作成し、大手住宅メーカー並みの品質を地元の中小工務店が担えるよう技術支援等も行っている。特に地元産無垢材を構造材として使用し形式認定を取得できる方法を検討中である。



※ウッドマイルージーマ材の積込距離をCO2削減量に換算してポイントを付与。

画期的なマニュアル作りで長期優良木造住宅の普及促進を



PHOTO/1.事務局 斎藤防郎氏 2.伊藤氏

PROFILE

「天竜の山をなんとかしよう」という思いから始めたという齋藤さん。「地元工務店は地元材の良さを伝えるのが使命」との強い信念のもと、天竜材の品質や性能を科学的データに基づいて証明し、木造住宅の設計サポートを行う。「本気で地元材を使おうと思ったら家は足りない。歩留まり5割にするには製材工場の整備拡張から始めなければ」と呼びかける。

(有)住環境研究所

代表
藤田 昌弘氏

環境の世紀の暮らし方を提唱する、 地域材フル活用のエコハウス

木造建築のぬくもりを最大限に生かして設計した「どんぐり保育園」が浜松市都市景観大賞を受賞。奇抜で斬新なデザインの建造物の受賞例が多い同賞で、地味だが町のたたずまいに溶け込んだ外観と、ユニークな内部構造が評価された稀有な事例だった。環境省21世紀環境共生型住宅モデル整備による建設促進事業の認定を受けた「浜松市エコハウスモデル住宅-きづきの森」が2010年6月にオープンし、注目を集めている。



PHOTO/藤田氏

PROFILE

浜松の気候特性を生かし、省エネで環境負荷の少ないエコ技術(フィッツソーラー、エコキートソーラーヒート、ペレットストーブ等)が投入された「きづきの家」。「地元材の使用は、地産地消だけでなく、他から輸送するのはエコじゃない」という発想から、ペレット(木くず)棟梁も木材産地ならではのエコ。藤田さんは「自然を生かして工夫することへの気づきや感謝のある暮らしを提唱したい」と語る。

「デザインは思いやり」を実践する居心地のよい住まいづくり

私が提唱するエコハウスもほとんど地元材の材木を使っていますので、ウッドマイルージに賛成できると思います。エコハウスは築18年の自宅の設計をベースに、自然エネルギーを取り入れた居心地のよい住まいづくりを心掛けました。知事が「デザインは思いやりだ」とおっしゃっていたとおり、気持ちの良さが当たり前を感じるようなデザインを施せたらと思っています。地元設計者や地元材を使った住宅建築にかかわる人々の組織を作り、連携して家を守る仕組みができるとありがたいですね。

天竜無垢の 木ひのきの家 普及促進協議会

代表
藤田 正樹氏
事務局
縣 美樹氏

地元大工集団の知恵と技を凝縮した 天竜材のモデルハウス

県西部を中心とした木造建築関連業者が天竜の山の木材の普及促進を目的とした協議会を設立。その中の15社の工務店が棟梁会を結成し、2010年3月に共同モデルハウスをオープンさせた。ハウス内では天竜材、とりわけ檜の魅力や無垢材を内装やインテリアに生かす知恵がいかに披露されている。設計者の一人で協議会事務局を担当する藤美樹さんが常駐し、見学者に工務店の紹介や設計リフォーム相談を行う。棟梁会会員に対してもクラウドネットワークなどを利用して様々な業務支援を行う。



地元材の普及のためにも、 地元の元気な大工さんたちを支える[藤田氏]

住宅メーカーが使う木材は外国産材がほとんど。地元で国内外で高い評価を得ている天竜の木材があるのになぜ遠くから外材を持ってこなければならないのかというのが、そもそもの考え方でした。棟梁会の大工さんは地元で生活し、建てた家の面倒を見ながら活動しています。地元材の木材を使ってたくさんの家をつくっていますが展示場やパンフレットを持っていません。そこで地元の工務店さんに元気になってもらい、天竜材を沢山使ってもらうために大工さん達が商談で使えるようなモデルハウスをつくりました。まずモノを見てもらい、地元材や地元工務店の技術の優れた点をその目で理解していただく。地元工務店に足りない営業力は、協議会でできるだけサポートしていきたいと思っています。



PHOTO/1.藤田氏 2.天竜ひのきの家

無垢材の魅力を「実物大」で伝えるモデルハウス[縣氏]

モデルハウスは構造材や内装材のほとんどを天竜ひのきでまかないました。総ひのきづくりという純和風な家を考えがちですが若い方達にも受け入れられる新しいデザインで、ひのきの香りに包まれた心地よい空間をつくっています。また無垢材に対応した耐震接合金物なども利用し、デザインだけでなく無垢の木の可能性を追求しています。無垢材の長所も短所もそのままに表し、大工さん達が無垢の木の特性を説明しやすい展示場となっておりますのでぜひ一度ご覧ください。

PROFILE

藤田代表は天竜木材の振興に尽力する材木業者。今まではどちらかといえば天竜材に注目が集まっていたが、実は約4割を占める檜も杉との価格差がほとんどない。「新建材が主流となってしまった昨今の住宅建設だが、新建材は焼却する際に大量の煙や有害ガスを発生させるなど環境的にも問題が多い。せっかく地元でいい木材があるのだから、地元が率先して生かす努力をしなければ」といって、「天竜ひのき」の新たな需要開拓と普及促進に力を入れる。